

学校教育目標	「共にチャレンジ みんなかがやけ」				
	【知】学んだことを生かして主体的に考え、学び続ける子どもを育てます。 【徳】互いのよさを認め合い、協働し合う子どもを育てます。 【体】命と体を大切に、心身ともに健やかな体をつくる子どもを育てます。 【公】進んで人のために役立つよう、地域に愛着をもつ子どもを育てます。 【開】広い視野をもち、チャレンジし続ける子どもを育てます。				
学校概要	創立 55 周年	学校長 江目 親利	副校長 富永 亮大	2 学期制	一般学級: 12 個別支援学級: 4
	児童生徒数: 334 人	主な関係校: 芹が谷中学校 芹が谷南小学校			

教育課程全体で育成を目指す資質・能力	中ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<コミュニケーション能力> ○目的や意図に応じて伝える力 ○多様な考えのよさを生かす力 ○伝え合うことで自分の考えを深める力	芹が谷中学校 芹が谷小学校 芹が谷南小学校	発達段階に応じたコミュニケーション能力の伸長 「自分の思いを大切に、相手のことを考えて伝える子」 ・ブロック合同授業研修及び研究協議会を行い、「学力観・指導観・評価観」を共有し、授業改善を通し子どもたちの学力向上を図る。・児童生徒交流の機会として、授業見学や部活動体験、ふれあいコンサートを実施し、小学校から中学校への接続を円滑に進める。・3校の児童生徒代表が学校づくりについて話し合うとともに、地域のネットワークの中で意見交換することで、挨拶運動等の取組を地域とともに広める。

<b>中期取組目標</b> ○学校の主体性を発揮し、児童・保護者・地域とつながり、信頼される開かれた学校づくりを推進します。 ・一人ひとりが、様々なことに積極的にチャレンジすることで輝き、あいさつと笑顔が広がる学校にします。・自らが生活を見つめ、自分を大切にすることを育むとともに、相手の立場や気持ちを考えて、主体的に生活を創る子どもの育成を目指します。・学ぶことの意義や楽しさを感じながら学習習慣を身に付け、基礎基本を徹底し、知を働かせて生きる子どもの育成を目指します。・自分たちのまちに愛着をもち、コミュニケーションを図って視野を広げ、つながりを大切にする子どもの育成を目指します。
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

重点取組分野	具体的取組
<b>生きてはたらく知 (学習指導)</b> 担当 企画会	①めあて学習が定着してきたので、一歩進んでめあてを意識した授業展開からまとめへとつなげられるように授業を組み立てる。②国語科の重点研や読みのスキル向上推進校での学びを深め3観点の見取りを確実にしていく。③コロナ禍でもできる主体的で対話的で深い学びを実践していく。
<b>豊かな心</b> 担当 糸瀬・宮原	①たてわり活動の年間計画を見直し、コロナ禍でも充実した活動を図る。②学級目標は掲示するだけでなく、達成状況が分かるように工夫して生活できるようにする。③挨拶運動をさらに充実させ、挨拶から次の言葉が出せるようにしてコミュニケーションを深められるようにする。
<b>健やかな体</b> 担当 体育部	①性教育やジェンダー教育の年間計画を作成し、系統的な指導をする。②学校保健委員会を充実させ、リモートで行えるような会議も増やす。③昨年度できなかった、スポーツ推進委員との連携を密に図り、楽しみながら体力向上を図る。④長縄集会の取組など、体力アップの活動を充実させる。
<b>児童指導</b> 担当 児童指導部	①「あいさつ・言葉遣い・温かい心」の合言葉が定着してきたので、さらに誰もが安心して安全に学校生活が送れるようにする。②人権教育実践推進校2年目の取組を充実させる。YP推進校で積み重ねてきた活動を継続する。③児童指導を高める研修や授業づくり講座に積極的に参加する。
<b>特別支援</b> 担当 特別支援コーディネーター	①ブロックごとのコーディネーターが円滑に特別支援教育を推進していく。②ユニバーサルデザインの授業を充実させるために、指導主事研修や独自の研修を行ったりする。③特別支援教育支援員を多く確保し、一般級の配慮を要する児童にも支援できるようにする。
<b>幼保小</b> 担当 幼保小担当	①コロナ禍でもできる交流方法を探り、交流を充実させていく。②年3回の幼保小連携会議を復活させ、1年生・5年生を中心に多くの学年で交流できるようにしていく。③昨年度末に行った、園児を招待した「ちよこつと図書」で低学年の児童と交流を図る。
<b>地域連携・学校運営協議会</b> 担当 教務主任・児童支援専任	①昨年度、地域の行事等はほとんど行われなかったが、今年度行われる地域行事に積極的に参加して交流を深める。②運営協議会の委員と職員がしっかりと連携し、充実した教育活動を推進していく。③地域コーディネーターを増やし、地域の力を生かす活動を充実させていく。
<b>自分づくり教育</b> 担当 生活総合部・特活部	①総合的な学習と特別活動の年間計画を立て、計画的・実践的に活動を行っていく。②学級活動や代表委員会の活動を充実させ、学級や学校の間関係を深める中で自分づくり教育を確かなものにする。③キャリアパスポートを生かして、連続的に子どもの成長を見取っていく。
<b>いじめへの対応</b> 担当 特別支援・児童指導部	①いじめへの対応では、学校全体で連携を深め、早期発見・早期解決を目指す。②ささいな事でも、互いに共有し合って、いじめは小さな芽のうちにつぶしていく。③いじめが起きにくい風土をつくるため、学級経営を充実させていく。そのために、学級経営の力を研修などをとおして高めていく。
<b>人材育成・組織運営 (働き方改革)</b> 担当 教務部・メンターチーム	①新学習指導要領で求められることを研修を通して確認し、3観点での見取りを確かなものにする。②ミドルリーダーを中心に、経験の浅いメンティが学べるメンター研を充実させていく。ベテランの教員も講師としてかかわっていく。③地域力を学校に取り入れて、職員が安心して教育活動を進めることで働き方改革につなげる。